

45. ^{75}Se -Selenomethionine による悪性リンパ腫の診断

北海道大学 放射線科

三橋 英夫 菊池 雄三 三田 迪哉
渡辺 太郎 若林 勝

^{75}Se -Selenomethionine は静脈注射後直ちに蛋白合成に関与するため、代謝の盛んな臓器に集まることが知られている。1965年 Herrera らは悪性リンパ腫のスキニングに用いて、病巣部に一致して陽性像として描画できることを報告している。われわれも悪性リンパ腫における診断的可能性について検討を試みた。

1) 陽性描画について。

100~300 μCi 静注時間以後にシンチカメラ (Phogamma III) および 3 インチ・シンチスキャンナーを用いて検査した。症例は悪性リンパ腫14例 (細網肉腫 8 例), ホジキン氏病 4 例, リンパ肉腫 2 例) である。対照として白血病リンパ性白血病で慢性化の経過をとるもの) 4

例, 神経芽細胞腫 2 例, サルコイドーシス, Brown腫瘍, セザリー症候群の各 1 例である。悪性リンパ腫14例中10例が陽性を示した。陰性の 4 例は縦隔部に発生したもので、放射線治療後のもの 2 例と頸部およびエキ下部に見られた触知リンパ節の大きさ 3 cm 以下のもの 2 例であった。部位的には上顎洞, 上咽頭部, 頸部, 縦隔部, 腹部に発生したものや骨転移例 (頭蓋骨, 骨盤, 大腿骨) に陽性像を示した。対照例では Brown腫瘍 下顎骨巨細胞腫), セザリー症候群の 2 例が陽性であったが他は全て陰性であった。

2) 生物学的半減期の測定。

悪性リンパ腫 (細網肉腫例) および正常者の各々 2 例につき、血清からの消失曲線から半減期を求めた。正常者では A ($T_{1/2}$ 7.1日), B ($T_{1/2}$ 32日) の 2 相に、患者では B ($T_{1/2}$ 9.4日平均) の 1 相を示し、悪性リンパ腫患者の半減期が短かった。